

埋蔵文化財センター創立40周年記念事業
2018. 01. 28(日)

新しい歴史を作るために ～復興発掘調査から見てきたもの～

盛岡大学 熊谷常正



南部北上高地の石棒製作遺跡

粘板岩製の石棒類
一関市室根町 浮野遺跡

岩手県内の主な被災指定文化財

2011.4.18. 県教委調査
5.9岩手史学会調査
による

- 二戸市・九戸城跡
- 盛岡市
岩手銀行旧本館
旧九十銀行本館本館
岩手大学農学部ほか
- 盛岡市・志波城跡
- 花巻市・成島屋沙門堂
旧小原家住宅
旧伊藤家住宅ほか
- 北上市
旧黒沢原女学校校舎
旧菅野家住宅ほか
- 金ヶ崎町・城内地区仮建
- 奥州市・高野長英旧宅ほか
- 平泉町 毛越寺庭園
中尊寺白山神社能舞台ほか
- 一関市・世継ノ一酒造所ほか
- 宮古市
浄土ヶ浜
備合家住宅
- 遠野市
千波家住宅
- 釜石市
横野高伊勢
- 住田町
栗木鉄山跡
- 陸前高田市
神仙酒造
吉田家住宅ほか

内陸部の被災史跡

国史跡 釜石市横野高炉跡



国特別史跡・名勝 毛越寺庭園

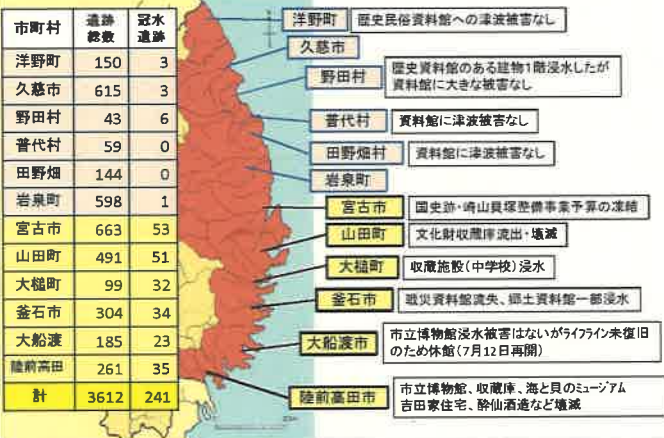


国史跡 住田町栗木鉄山跡



沿岸部の遺跡と関係施設等の被災状況

市町村	遺跡 総数	冠水 遺跡
洋野町	150	3
久慈市	615	3
野田村	43	6
普代村	59	0
田野畑村	144	0
岩泉町	598	1
宮古市	663	53
山田町	491	51
大槌町	99	32
釜石市	304	34
大船渡	185	23
陸前高田	261	35
計	3612	241



- 洋野町 歴史民俗資料館への津波被害なし
- 久慈市 歴史資料館のある建物1階浸水したが資料館に大きな被害なし
- 野田村 資料館に津波被害なし
- 普代村 資料館に津波被害なし
- 田野畑村 資料館に津波被害なし
- 岩泉町 国史跡・崎山貝塚整備事業予算の凍結
- 宮古市 文化財収蔵庫流出・壊滅
- 山田町 収蔵施設(中学校)浸水
- 大槌町 収蔵施設(中学校)浸水
- 釜石市 震災資料館遺失、郷土資料館一部浸水
- 大船渡市 市立博物館浸水被害はないが9イライン未復旧のため休館(7月12日再開)
- 陸前高田市 市立博物館、収蔵庫、海と貝のミュージアム、吉田家住宅、酔仙酒造など壊滅

陸前高田市広田半島の貝塚被災状況

中沢浜貝塚
縄文時代前・晩期、明治時代から発掘され、多数の人物が発見された。昭和九年に国の史跡に指定されている。



門前貝塚
県内の貝塚で最初に学界に紹介された。縄文後期の門前式土器の標識遺跡で、特殊な弓矢状の配石遺構などが発見されている。

中沢浜貝塚

冠水した史跡南側の状況



史跡中心部にあたる丘陵は津波の影響は確認できなかったが、史跡南側の低地や西側の漁港に面した箇所は冠水した。その後、地元からの要請により、防災公園として避難階段や一時避難施設の設置が行われた。

史跡中央から泊漁港をのぞむ



史跡北西側の状況





門前貝塚

被災前の門前貝塚(2009年撮影)

被災後の門前貝塚(2011年5月撮影)

弓矢状配石遺構



大槌町吉里吉里崎山弁天貝塚

遠景(2004年撮影)

被災後の遠景

発出する遺物包き帯

崎山弁天貝塚
縄文早～後期の遺跡。
早期後半にさかのぼる
県内最古級の貝塚の
ひとつ。後期には配石
遺構も形成される。
クジラ肋骨製の刀剣形
骨器も出土している。

関係機関による救援・支援活動

- 3/11 地震・津波発生
- 3/24・25 県教委、沿岸部被害状況確認
- 3/28 岩手県知事、国へ緊急要望書提出(埋文調査の人的・財政的支援)
- 4/1・2 県立博物館・一関市博が陸前高田市吉田家文書(県指定)等を回収
- 4/4 吉田家文書ほかを県立博物館・県埋文センターへ搬入
- 4/5～13 県立博物館、海と貝のミュージアム収蔵資料回収
- 4/5 吉田家文書修復作業開始、大槌町文化財収蔵庫確認
- 4/8 岩手史学会・岩手考古学会、県教委で情報収集
- 4/12 県教委、陸前高田市埋文収蔵庫被災状況確認
- 4/15～ 陸前高田市立博物館資料回収
- 4/15 大槌町文化財収蔵庫資料回収(約300箱)、県埋文センターへ搬入。
- 4/21 陸前高田市文化財収蔵庫資料(約400箱)回収、花巻・奥州・平泉へ搬入
- 5/2 岩手歴史民俗ネットワーク、震災にかかる文化財保存声明発表
- 5/12 文化庁調査官が陸前高田の被災状況を視察

復興事業工程と埋蔵文化財

県が示した主なまちづくり復興工程表

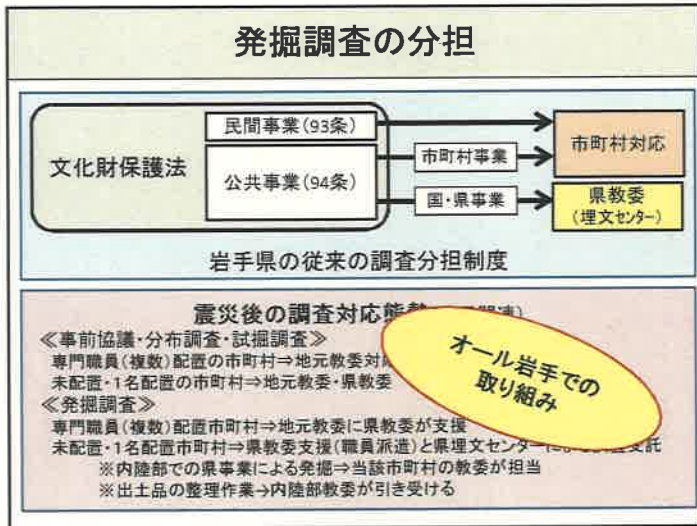
2011年度 2012年度 2013年度 2014年度

復興へ埋文調査課題

『岩手日報』2011.5.13の記事

仮設住宅の建設、集落の高台移転、冠水区域のかさ上げ工事など、復興事業の実施にあたって遺跡の発掘調査が課題となった。

『岩手日報』2012.3.8の記事



調査態勢の強化

2012(平成24)年度	2013(平成25)年度
○県教委埋文担当職員の増員 県職員 4名(2011)→9名(2012) 他道府県からの派遣 10名 ○県埋文に復興調査班設置(10名) ○県内外市町村職員の市町村への派遣 陸前高田市・大船渡市・釜石市・ 宮古市・大槌町・山田町 計11名	○派遣職員の増員 計22名(派遣8名) ○市町村への他県職員派遣 28名 ○県埋文、調査員増員 44名(派遣3名) ○デジタル機器導入による調査効率化 ○内陸部市町村教委の県事業調査受託 ○内陸部市町村教委の遺物整理協力 陸前高田市→花巻市など
2014(平成26)年度	2015(平成27)年度
○県教委埋文担当職員 20名 総括・調整 1名 通常事業担当 3名 復興事業担当 16名(派遣職員12名) ○県埋文 他道府県埋文センターから派遣 6名 OB調査員雇用 7名(含埋文OB1名) 新人調査員採用 12名	○県教委埋文担当職員 17名 総括・調整 1名 復興事業担当 16名(派遣職員8名) 山田町派遣 1名 ○県埋文 他道府県埋文センターから派遣 5名 OB職員雇用 6名 新人調査員採用 8名

全国からの調査支援

年度	派遣先	県	市町村	埋文
2012 H24	岩手	10	11	—
	宮城	17	2	—
	福島	5	—	—
2013 H25	岩手	8	28	3
	宮城	24	11	—
	福島	12	2	5
2014 H26	岩手	12	22	6
	宮城	20	12	—
	福島	6	—	5
2015 H27	岩手	8	12	5
	宮城	12	11	—
	福島	7	1	3
のべ計		141	91	27

宮古市の復興事業関連発掘調査

宮古市 千鷲IV遺跡

盛岡市や名古屋市・小田原市・堺市・高松市からの派遣職員が発掘調査にあたった。宮古市など沿岸地区は黒色土が発達せず、土層の見極めは困難な遺跡が多い。

宮古市田老
椋内I遺跡

2013(平成23)年度の発掘調査実績

発掘調査 9件 試掘調査 18件
 工事立会15件 計42件
 (内被災対応 発掘調査 4件
 試掘調査12件 立会4件 計21件)

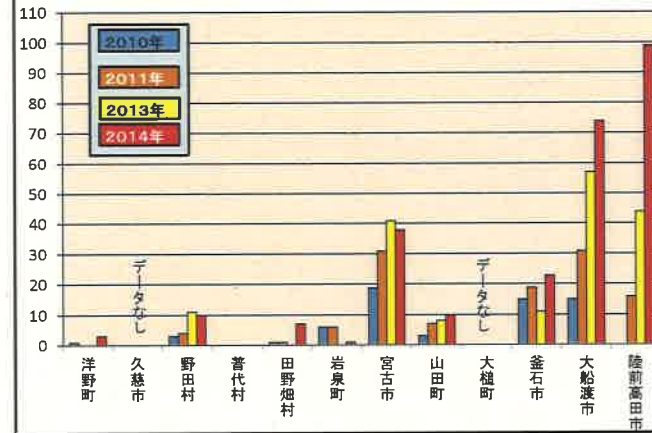
埋蔵文化財所在照会 651件

2013年度 陸前高田市の埋文調査状況

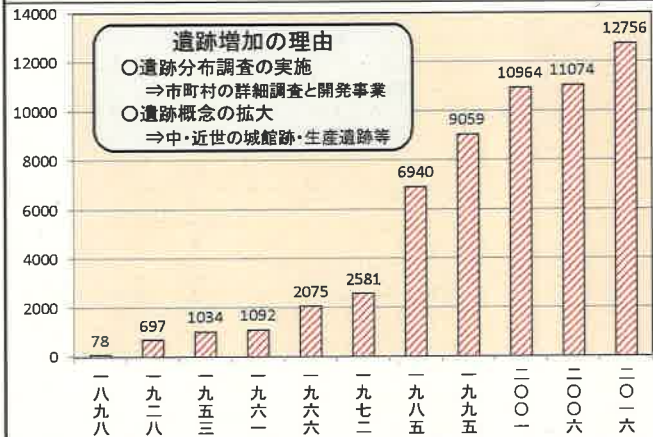
【遺跡照会件数】	試掘調査	工事立会	慎重工事	計	
249件	93条(民間開発)	21	36	44	98
	94条(公共事業)	15	2	13	30
	計	36	38	57	128

【復興事業に係る埋文調査】	防犯集団移転促進事業			土地区画整理事業		
	遺跡名	面積	対応	遺跡名	面積	対応
	堂の前貝塚隣接地	2,504	試掘	高田城	52,480	発掘
	下矢作	650	試掘	洞ノ沢	4,350	試掘
	小長淵	2,155	試掘	榑ヶ沢	6,480	慎重
	双六塚	5,332	立合	西和野Ⅰ	15,690	試掘
	脇沢館・川西	24,795	試掘	下和野	4,500	試掘
	後谷地・両替館	4,681	試掘	古館	38,200	試掘
	雲雨・森崎Ⅰ	6,383	試掘	中和野Ⅱ・Ⅲ	7,200	試掘
	内田	1,260	試掘	中井	7,520	試掘
	中沢	4,675	一部発掘	廻館	15,820	中止
	草見沼	5,154	試掘	愛宕下Ⅱ	1,280	発掘
	小計	57,589		小計	153,520	
合計 211,109㎡ (試掘調査残:65,440㎡)						

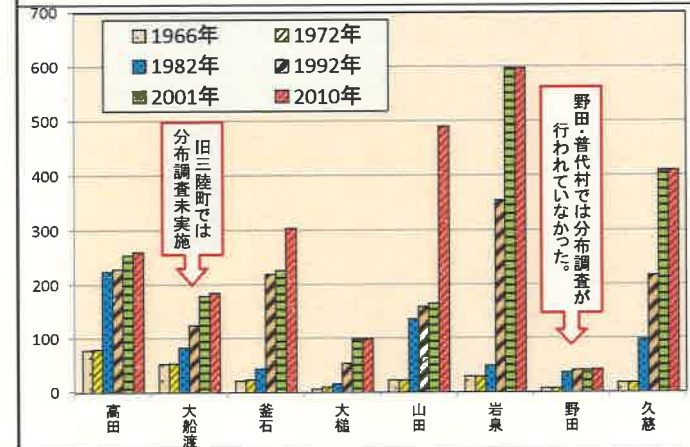
沿岸市町村届出件数の推移



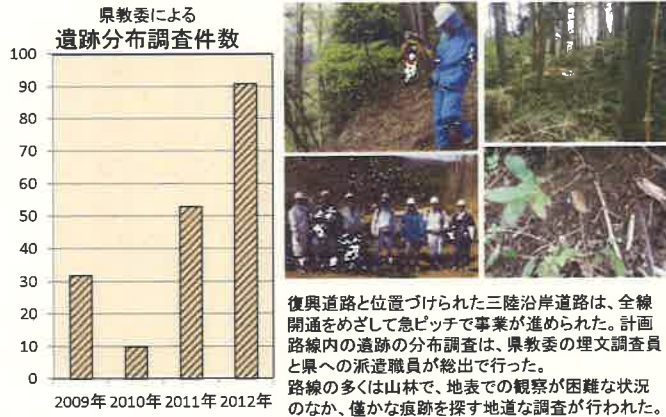
岩手県内遺跡数の変遷



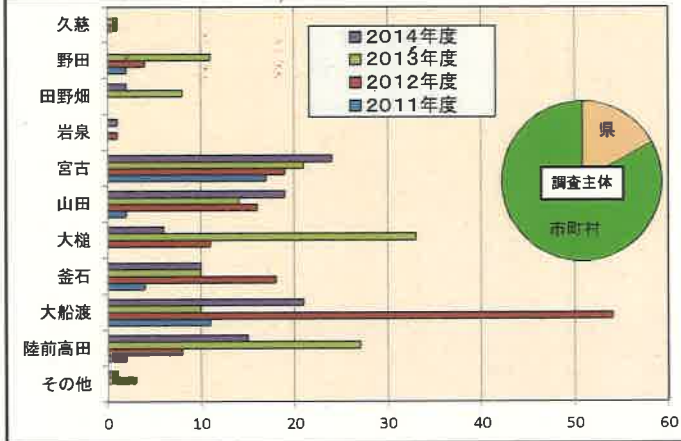
沿岸市町村の遺跡数変遷



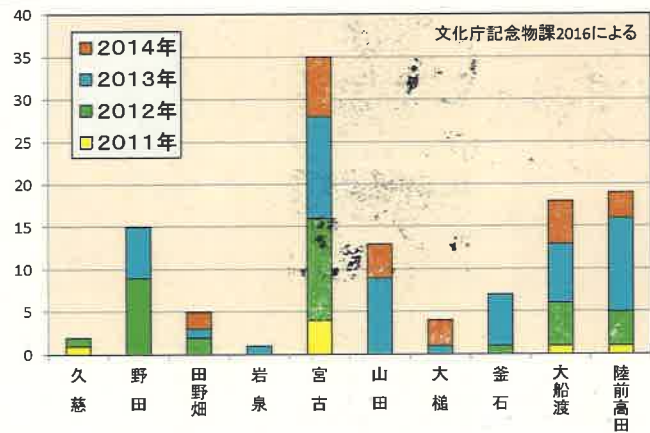
復興事業にかかる分布調査の実施



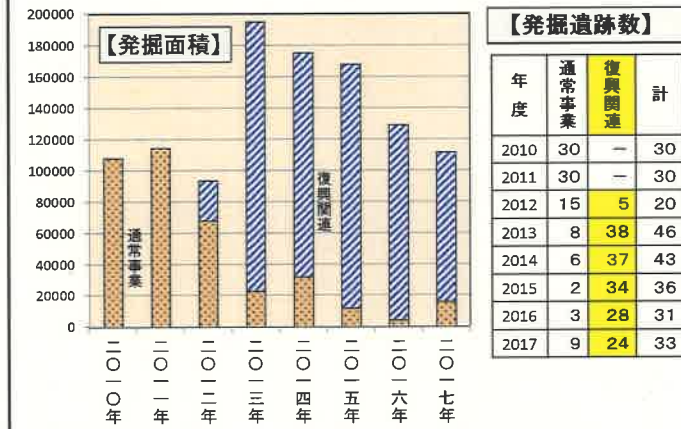
復興事業にかかる試掘調査件数

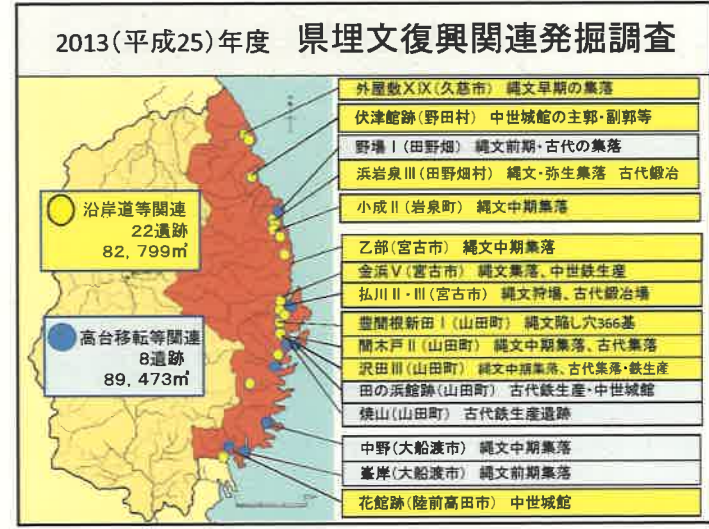
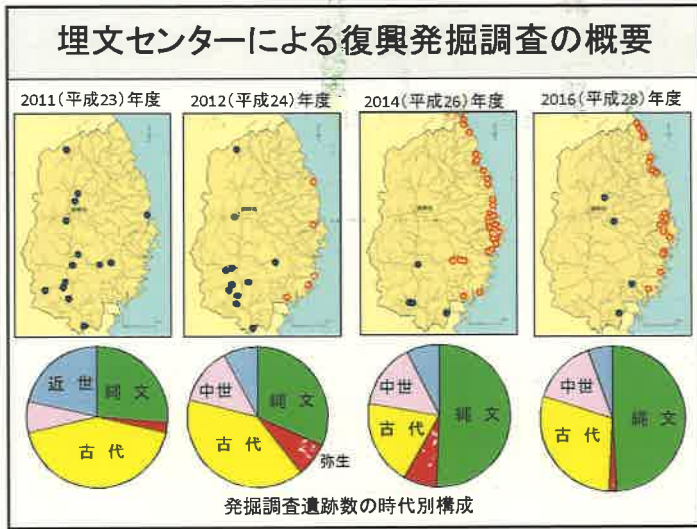


本調査の状況(2011~14年度)



県埋文センターの復興事業関連発掘調査





洋野町・西平内 | 遺跡

調査の様子

縄文時代後期前葉を主とする遺跡。渋谷川右岸の丘陵に位置し、海岸へは約1kmを測る。丘陵上位の平坦部に環状列石、南側斜面で40数基の配石群を発見。このような大規模配石群は、本地域では初めてである。

丘陵平坦部の環状列石

斜面の配石群



大石漁港からの避難路整備に際して、2012年(H24)に埋文センターが一部を発掘したが、丘陵上部は用地未買収のため調査には着手できなかった。上部地区の調査は釜石市教委が民間発掘会社に委託して、2015年(H27)に実施された。

貝塚のほぼ全体が検出できた



貝層の状況

貝層から出土した動物遺存体と骨角器

遺跡の保存に向けて



現地説明会(2015.10.3.)

貝層の様子を観察する

野田釜石市長の視察

保存に向けた委員会の設置

陸前高田市・堂の前貝塚



陸前高田市米崎町にある縄文中期〜後期の遺跡。幼稚園などの高台移転に伴い市教委と県教委の派遣職員が調査した。

縄文中期末の住居で発見された大形石棒

方形の巨大な柱穴をもつ建物跡

大阪府・弥生文化博物館の特別展示



会期: 2014年(平成26)年5/3~6/29

大阪府和泉市池上町
府立弥生文化博物館

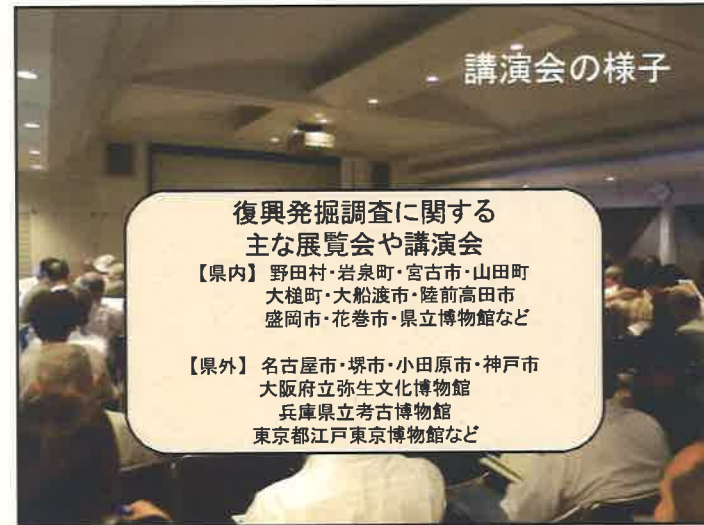
↑
リーフレットと
図録→

池上曾根遺跡の復元建物

展示の様子



講演会の様子


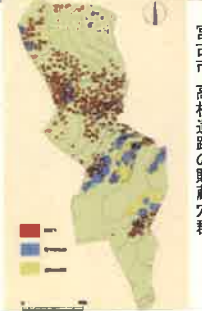


復興発掘調査に関する 主な展覧会や講演会

【県内】 野田村・岩泉町・宮古市・山田町
大槌町・大船渡市・陸前高田市
盛岡市・花巻市・県立博物館など

【県外】 名古屋市・堺市・小田原市・神戸市
大阪府立弥生文化博物館
兵庫県立考古博物館
東京都江戸東京博物館など

復興発掘調査の主な成果 縄文時代

縄文草創期の 爪形文土器	宮古市 日の出町Ⅱ遺跡		宮古市・高根
南部浮石に覆われた 縄文早期中葉の集落	久慈市 外屋敷ⅩⅢ遺跡		
縄文前期の大型住居と 後期の配石遺構	大槌町 赤浜Ⅱ遺跡		宮古市・高根遺跡の貯蔵穴群
縄文中期末葉の 大規模集落と複式炉	山田町 石峠Ⅱ遺跡		
群在する縄文 中期の貯蔵穴群	宮古市 高根遺跡 越田松長根Ⅰ遺跡		
海沿いの低地で 営まれた縄文ムラ	山田町 浜川目沢田Ⅰ遺跡 大槌町 赤浜Ⅱ遺跡 釜石市 片岸貝塚		

復興発掘調査の主な成果 弥生時代

	野田村 上代川遺跡	弥生中期の集落
	田野畑村 浜岩泉Ⅲ遺跡	弥生後期の集落
	宮古市 乙部野Ⅱ遺跡	住居跡から弥生前期の 土器が一括出土
	宮古市 向新田Ⅲ遺跡	弥生前期の集落
	大船渡市 宮野貝塚	弥生前期の土器の 層位的出土

浜岩泉Ⅲ遺跡
遺構配置図



浜岩泉Ⅲ遺跡の
弥生後期の土器(左)と
住居跡(右)

復興発掘調査の主な成果 古代

野田村
平清水川遺跡

奈良・平安時代の集落と
土壌墓から藤手刀の出土

宮古市
日の出町II遺跡

古墳時代の
須恵器出土

野田村
蒲沢遺跡

飛鳥・奈良時代の
集落でのコハク加工

宮古市
津軽石大森遺跡


古墳時代後期～奈良時代の
集落と須恵器やコハクの発見

山田町
岩ヶ沢遺跡

古墳時代の
剣形石製模造品

主な製鉄関連遺跡

野田村 上代川遺跡
 田野畑村 浜岩泉川遺跡・野場遺跡
 宮古市 荷竹日向遺跡・青猿遺跡
 高根遺跡・松山館跡・沼里遺跡
 根井沢穴田IV遺跡など
 山田町 沢田川遺跡・間木戸V遺跡
 焼山遺跡・浜川目沢田II遺跡
 川向I遺跡・田の浜館跡など
 大槌町 田屋遺跡など



山田町焼山遺跡の製鉄炉(11c)


復興発掘調査の主な成果 中世・近世

平泉文化と関連する遺跡

釜石市 川原遺跡

宮古市 田鎮車堂前遺跡

田鎮車堂前遺跡の堀跡



城館跡の調査

- 久慈市 宇部館
- 野田村 新館遺跡・伏津館
- 岩泉町 腰廻館
- 宮古市 重茂館・田鎮館
千徳城遺跡・松山館・
金浜館・田鎮館
- 山田町 田の浜館
- 大槌町 挾田館
- 大船渡市 小出館
- 陸前高田市 上長部館
蛇ヶ崎城・高田城
花館(飯森場)



野田村伏津館跡



陸前高田市
高田城跡

復興発掘の主な成果 近世



大槌町 町方遺跡



陸前高田市 吉田家住宅

江戸時代大槌は代官所が設置され沿岸南部の中核都市だった。発掘では、近世の町割りが発見され、伊万里や瀬戸などの陶磁器が多く出土した。

仙台藩の気仙郡大肝入である吉田家の住宅は県指定文化財であるが、津波で倒壊した。その敷地を発掘し、数回建て替えられたことがわかった。

岩手県考古学の歩み

1910～1930年代
国史に関わる郷土史

1950～1960年代

1990～2000年代
遺跡保存と活用

2010年～
大震災を乗り越えて

1919年 『史蹟名勝天然記念物保存法』公布

1922年 胆沢城・毛越寺・無量光院が国史跡に指定

1934年 中沢浜・下船渡・蛸ノ貝塚が国史跡に指定

戦争

1950年 『文化財保護法』公布

東京大(平泉遺跡群ほか)・慶応大(大洞貝塚ほか)・早稲
大(大槌の在京大)

被災地の方々の理解・全国からの支援
その発掘調査の成果を生かした歴史を
叙述し、新たな地域像と社会観を構築する。

1984年 大槌町六ツ子遺跡、志保城跡が国史跡指定

1988年 平泉柳之御所遺跡発掘開始→1995国史跡

1993年 御所野遺跡国史跡指定

2001年 「平泉の文化遺産」世界遺産暫定リスト登録

2007年 「縄文遺跡群」世界遺産登録への取組開始

2012年 復興事業関連発掘調査の開始

2015年 釜石市橋野鉄鉱山、世界遺産登録

岩手の歴史を考える

『岩手県史』の構成

第1巻 上古・上代篇(石器時代～平泉)	第7巻 近代篇2(江刺県・盛岡県)
第2巻 中世篇・上(鎌倉～室町)	第8巻 近代篇3(岩手県)
第3巻 中世篇・下(室町～奥州再仕置)	第9巻 近代篇4(県財政・産業)
第4巻 近世篇1(仙台湾・一関藩)	第10巻 近代篇5(交通・教育・兵事など)
第5巻 近世篇2(盛岡藩・八戸藩)	第11巻 民俗篇
第6巻 近代篇1(明治維新～明治初期)	第12巻 年表

刊行年

第1巻 1961年(昭和36)
↓
第12巻 1966年(昭和41)

監修 森嘉兵衛(1903～1981)
執筆 小岩末治(1923～2000)
板橋 源(1907～1990)
田中喜多美(1900～1990)
項目執筆 佐川盛造・司東真雄ら



田中喜多美先生と『岩手県史』



晩年の田中喜多美先生

1900(明治31) 1月、雫石に生まれる。
1914(大正3) 雫石小学校高等科を家事都合により退学、以後農業に従事しながら郷土史・民俗学の研究を行う。
1926(大正15) 『岩手郡誌』編集委員となる。この頃、柳田國男や喜田貞吉らと出会う。
1935(昭和10) 県教育会で雑誌「岩手教育」編集に携わる。
1940(昭和15) 県職員となり、『岩手県誌』編纂にあたる。
1942(昭和17) 岩手県史蹟名勝天然記念物調査会委員。
1947(昭和22) 岩手史学会の結成に関わる。
1952(昭和27) 岩手県文化財専門委員。
1958(昭和33) 岩手大学学芸学部非常勤講師。
1961(昭和36) 『岩手県史』刊行開始。
1962(昭和37) 岩手日報文化賞受賞。
1965(昭和40) 岩手県庁を退職。
1972(昭和47) 勲五等瑞宝章授与。
『岩手県並木史』(1947) 1990(平成2) 1月、盛岡市で死去。
『田中喜多美著作集』(1987)

[主要な著作]

『山の生活』(1931)
『山村民俗誌』(1933)
『岩手県並木史』(1947)
『田中喜多美著作集』(1987)

一五五年間

現在における『岩手県史』の評価

- 第1巻 上古・上代**
 - 旧石器時代の記述がほとんどない。
 - 掲載資料の大半が、採集資料である。
 - 年代ごとの変遷や相互の関係がわからない。
 - 生活領域など遺跡を群として把握していない。
 - 環境や生業に関する分析が行われていない。
- 第2・3巻 中世**
 - 武士団の紛争などに関する記述が多い。
 - 疑問のある系図や文書が使われている。
 - 生業や身分・女性・宗教・芸能の記述がない。
 - 城館など中世遺跡にほとんど触れていない。
- 第4・5巻 近世**
 - 藩政文書主体で、地方文書が用いられない。
 - 藩政に関し「公儀論」的な分析がない。
 - 文化史・美術工芸分野の記述が少ない。
 - 地域を越える商工業の交流の記述が少ない。
- 第6～10巻 近代**
 - 行政文書が中心になっている。
 - 産業統計が主で、観光・娯楽などが触れられない。
 - 近代国家形成と岩手県との位置づけがない。



天目茶碗 (宮古市・金浜館)



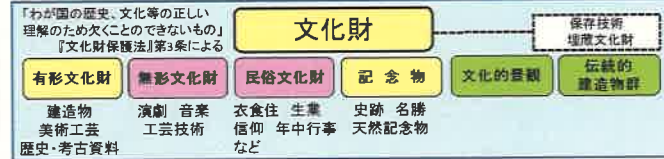
人面付小型壺

編集方針や目的が不明瞭で
歴史の流れが把握しにくい

掲載された資料・史料の所在が
現在、確認できないものが多い

歴史資(史)料と文化財の種類


区分	主要な資料	
	文字資料(史料)	文書・記録類 書籍・新聞類 金石・絵図類
画像資料	写真・映画・スケッチなど	
有形資料	建造物・土木工作物・美術工芸品・宗教用具・生活用具など (考古学資料の多くは、この中に含まれる)	
無形資料	信仰・祭礼・音楽・年中行事・伝承・地名・屋号など非文字資料	
地理資料	史跡・名勝・地形・地質・動物・植物など	
環境資料	景観・気象など環境を構成するもの	



公文書(史料)の保存と管理

『公文書館法』 昭和62年(1987年)
 第一条 この法律は、公文書等を歴史資料として保存し、利用に供することの重要性にかんがみ、公文書館に関し必要な事項を定めることを目的とする。
 第三条 国及び地方公共団体は、歴史資料として重要な公文書等の保存及び利用に関し、適切な措置を講ずる責務を有する。

2018.2.8(水) 震災後の岩手県の公文書保存を考える



近代・現代史の研究で行政文書類は基本資料
 企業や民間団体の活動記録も重要

昭和・平成の市町村合併 東日本大震災

貴重な歴史資料が廃棄・散逸してしまう
 膨大な資料の収集・調査は、個人では不可能で、組織的で長期の計画が必要

県内での公文書館は極めて少ない

「現代」史のない『岩手県史』

『岩手県史』第10巻のあとがきから

本県県史は、古代・上代史、中世史、近世史、近代史の各篇とし、凡そ一万二千頁をもって、本篇の歴史の部を編纂する」となった。その他は十一巻に民俗篇を、十二巻に県史年表を出版の予定である。本篇執筆の後末を昭和十六年までとしたことについては、次の理由に因った。

「歴史は過去のもの」という認識
 「歴史」は、過去の出来事を羅列するだけのものではない。現在の私たちの生活・社会に活かし、未来を考え、創るための基礎となるもの。」

一 大戦以前の県勢史は旧憲法下のもので、まさに歴史上の事実となったので、本篇十巻には県史の名を用いた。以上の見地からして、岩手県史本篇の後末は、「こ」で編纂する」となった。(執筆主任田中喜多美談す)

勢治筆は、

歴史の画期と自治体史

岩手県史 歴史観

過去 → [現在] 現代 → 未来

あるべき歴史

現代の基準はあいまい

歴史の画期

国や民族の全体に大きな影響を与えたできごと(人びとの生活や価値観が大きく変化した契機)

岩手の歴史には岩手にとっての画期があるはず

個性ある歴史
↓
個性ある地域

地域「岩手」はどうかあるべきか? そのため何をすべきか?

自治体の中心となるのは自治体の住民
 新たな「いわて」を創造していくためにも
 現代史を欠く『岩手県史』に代る
 岩手の住民を主体とした新しい「県史」が必要